教区新報 HONGYO

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341—5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1992.12.63号

井上善氏を囲んで26年

神戸の教学研究グループ『七祖会』

神戸市内の本願寺派寺院住職を中心とする教学研究グループ『七祖会』は、昭和四十一年十二月から井上善右衛門氏（神戸商科大学名誉教授）を講師に迎え、月二回の勉強会を続けている。七祖の聖教ばかりでなく、大乗起信論、臨済録なども読み、現在は中井玄道師校訂「教行信証」をテキストに化巻末まで読み進んでいる。

十一月二十四月夜、神戸西組佛心寺（池谷正信住職）での勉強会に参加させていただいた。

当日、井上氏は体調が悪く自習となり、メンバーは十六ページに及ぶ資料に目を通しながら、仏教と道教の優劣論の部分を読んでいったが、何年ぶりかで宗祖部を開いた記者には文字通り、右も左もわからないといったありさまであった。

聞くところによると、この会は昭和三十二～三年、龍大を卒業した頃に始めた勉強会が発端という。当時の勉強会の成果を「響流」という小冊子を作って発表していたが、その取材で井上氏の所へ行ったのがきっかけとなり、津守秀導氏（神戸東組照光寺）の呼びかけで『七祖会』が始まった。

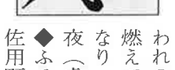
現在のメンバーは十人で、その中には法雷会館館主・稲垣弘一氏や成徳学園講師・田中英三氏らの顔ぶれも。

「井上先生がいのちがけで教えてくださっている。我々も少しでもそれに応えねば」と、化巻から資料の整理をしている稲垣氏。

勉強会の雰囲気を尋ねると「先生からの問いは、解説書にない問題そのものを突かれる。なぜこういう問題として取り上げられているのか、という問題の所在・根源を問われた時には困ってしまった。解説書的な答えが許されない、自分の言葉（いわゆる現代語）で言うとどうなるか、ということなんですね」と答えてくれたのは高坂省爾氏（神戸西組光瑞寺）。

「教える立場でなく一緒に考える学究的な態度」や「部分的に不明なところは綿密に」と井上氏を語るメンバーの話に、時間をかけてじっくりと宗学のみにとらわれず続けられている『七祖会』の視点を垣間見ることができた。（広報部）

井上氏（中央）とメンバー（朝光寺にて）



われの星
燃えておる
なり　星月
夜（虚子）

◆ふるさと佐用町は「星空の街」をキャッチフレーズにしています。90年春、大撫山上に星や宇宙へ親しみを深めることを目的として、県立西はりま天文台公園が開設され、多くの人が四季の美しい星空のもと、ロマンに浸っています◆とりわけ鮮やかに観られるのは大気が澄む晩秋から冬の夜空でしょう。あの美しく光り輝く星や月。しかし自ら光り輝いてはおらず、太陽の輝く光を受けて光り輝いているのです。「光る光る、すべては光る。自ら光らないものは、他より光を受けて光る」（坂村真民）◆生きている限り煩悩に噴まれ光ることのない悲しい生命ですが、同時に大いなる光に照らされた華やぐ生命であることの尊さを覚えずにはいられません◆「無慚無愧のこの身にて　まことのこころはなけれども　弥陀の廻向の御名なれば　功徳は十方にみちたまふ」悲歎述懐和讃が一入有り難く、きらめく夜空の何と美しいことか。（杵築俊昭）

教区だより 12・1月

5日(土)
第一土曜仏教講座　中西　智海師　1時半
8日(火)
青僧会役員会　5時
9日(水)
総代会評議員総会　10時半
矯正教化連盟兵庫支部研修会　神戸少年鑑別所
10日(木)
近畿地区仏教婦人会大会　奈良
10日(木)～11日(金)
中央推進委員会総会　本山
11日(金)
臨時教区会　10時半
12日(土)～13日(日)
第4ブロック仏壮連絡協議会　津村別院
13日(日)
総永代経開闡法要　大谷本廟
14日(月)
研修指導員部会　3時半
14日(月)～16日(水)
別院常例法座　谷川弘顕師　1時半
18日(金)
建設・推進委員会建築部会　10時半
19日(土)～20日(日)
スカウト仏教章取得講習会　別院
21日(月)
同兵宗連役員学習会　10時
同兵宗連部会　1時
企画推進室会議　3時
22日(火)
同朋運動推進専門委員会　2時
23日(水)
仏青ヤング広場　3時
24日(木)
京阪神都市開教本部会議　津村別院
25日(金)
年末組長会　1時半
28日(月)
教務所御用納め
'93年1月1日(金)
別院修正会　7時

納骨所パンフ・ポスター
教区全寺院に配布

平成七年に完成が予定されている別院納骨所の、ポスター、パンフレットなどが先ごろ作成され各寺院に送付された。

納骨所規格は、特別、大型、普通の三区画で、完成までの特別勧励予約期間中は特別懇志がそれぞれ、三百万円以上、百五十万円以上、五十万円以上となっており、特別勧励予約期間中に申込の場合は年次維持冥加が五年間納付免除となる。

詳細についてや、ポスター、パンフレットが多数必要の場合など、別院までお問い合わせください。

別院へ 建設懇志
愛生園・光明園

一方、寺院依頼懇志、協賛懇志はすでに各寺院に依頼され、教区内各地から納められつつある中、十一月二十五日には長島愛生園、邑久光明園での報恩講の際、「建設の資金に役立ててください」と、真宗同朋会と真宗法話会から、会員さんたちの懇志が教務所長に手渡された。

わかりやすい入門書
久堀弘義師の新刊「浄土真宗の教え」

著者は神戸湊組行願寺住職であり、中央仏教学院・仏教婦人会総連盟・教学研究所の講師を長年務めている、布教・伝道の第一人者である。

本書は、確かな教学と豊かな布教経験を持つ著者が、阿弥陀仏・浄土・念仏・人間などの浄土真宗の基本テーマを、曇鸞大師の教学をベースに、具体的事例をまじえて明解に説いた書き下ろしであり、門信徒・僧侶はもちろん、広く浄土真宗に関心を寄せる人々にお勧めできる格好の入門書となっている。（定価千八百円。法藏館☎〇七五—三四三—〇四五八）

「同朋」標語を募集

近畿同朋推進協議会では毎年各寺院へ同朋運動の推進を目的として、二種類のポスターを二枚配布させていただいております。

今年も標語を広く募集しますので、ふるって応募下さい。

◇同朋運動の推進を目的とするもので未発表のもの原則として二十字以内。

◇締切は一月十五日で教務所近同推事務局へ郵送下さい。採用作品には記念品を贈呈致します。尚、採用作品で語句の変更をさせていただく場合がありますのでご了承願います。

敬弔

尾野了甫師（おの・りょうほ＝揖龍東組西福寺前住職）十一月六日、八十九才で往生。葬儀は十一月九日西福寺で。「清光院釋了甫」昭和十五年から住職在職五十二年。この間、昭和十六年から組長一期などを務めた。

飯田徳壽師（いいだ・とくじゅ＝神戸西組寶球寺衆徒）十一月十四日、九十才で往生。葬儀は十一月十五日。「寶照院釋徳壽」

前向きな体験発表

岡山で教区仏壮連盟大会

詩吟や唄のアトラクション

第十八回兵庫教区仏教壮年連盟岡山大会が十一月十五日、和気郡日生町の西念寺（岡山南組）本堂を満堂にして開催され、岡山ブロックにおける仏壮活動の活性化に向け、参加者は自覚を新たにした。

午前中は雅楽の合奏もあった開会式に続き、中央相談員・好井正良師の基調講演があり、午後は地元の松笙会日生支部の方々による詩吟や唄のアトラクション、体験発表と続いた。

好井師は『心と言葉』と題して「言葉は心を写す鏡であり、言葉が粗雑であるということは心が粗雑になったからだとも言えます。親鸞聖人の言葉を通して、私たちの心のありようを問い聞いていきたいものです」と講演。その中で、説得の仕方について述べた本を紹介しながら「会員ひとりひとりが仏壮活動の楽しさやすばらしさを語っていくことが、慶びを伝えていくことになる」と話した。

仏壮会員四人による体験発表では、岸徹夫氏（岡山南組西念寺）が「西念寺昭和大修復と仏壮活動」と題して総代、仏婦、仏壮の協力によってなされた修復の詳細について、頓宮一徳氏（岡山南組浄光寺）が「仏壮活動の推進について」と題して、日常生活の中にみ教えを生かすことを自身の経験を通して、木元芳明氏（阪神北組源照寺）が「おかげさま」と題して、父の死やわが子の障害に悩み、お寺参りの縁を通して生かされていることに気付かされてきたこと、川本研吾氏（岡山北組宝福寺）が「私達の仏壮活動」と題して、会員減少の問題を抱えながらも仏前結婚の奨励など一歩一歩進めていきたい、とそれぞれが発表した。

姫路東組正楽寺住職 大谷千正さん

伝道の音楽作曲へ

長女・希理加ちゃんのレッスンも

去る十月二日、姫路東組組巡教の巡回寺院として即如ご門主をお迎えした正楽寺で十一月三日、第二十六代住職継職奉告法要を勤め、境内は二カ月続いての大きな行事に、大勢の門信徒で賑わった。

組巡教と大法要が続いた苦労について質問すると「大変でしたが、地域の結束と、お稚児さんの中には遠方の親戚からの参加も多く、ありがたかった」と門徒さんへのお礼の気持ちを込めて語る。

継職法要の様子は「音楽家住職が誕生」という見出しで、十三年間にわたるフランス留学や、音楽著作権協会からの作曲賞受賞、パリ・ソルボンヌ大学での文学博士号取得の経歴などとともに新聞に紹介された。

中学生の頃から作曲を勉強し、高校卒業後フランスへ。最初は「音楽の専門用語の詰め込みと日常会話程度」だったそうだが二年間の生活でフランス語をマスターした。「仕送り、健康など、やはり気掛かりでした」と母親の千代さんは当時を振り返る。

留学中は作曲を主体に音楽学（音楽史・音楽美学など）を学び、専攻はフランス近代音楽史。博士論文はガブリエル・フォーレ（一八四五～一九二四）という作曲家について研究した。

帰国後、東京芸大名誉教授・池内友次郎氏、安川加寿子氏らに働きかけ「日本フォーレ協会」を設立。フォーレの生誕百五十年にあたる一九九五年に、彼の作曲した「ペネロープ」というオペラを日本で初演できればと企画中。

「音楽家と宗教家の立場の接点となる『仏教と音楽』をテーマに、若い世代も迎え入れやすい、音を通して雰囲気を作っていく伝道の方法を考えていきたい」と住職としての抱負を語る。

姫路市花田町高木四〇三

（広報部）

ビハーラ研修に287人

HO回顧

会場で意見を求める奈倉師

◆**10月26日**＝建設・推進委員会総務部会を別院で。組ご消息披露の実施報告と、今後の取り組みについて協議◆基幹運動本部との打ち合わせに教務所長ら本山へ◆**27日**＝第五回ビハーラ研修会を別院で。二百八十七人が参加。ビハーラ実践活動研究会員の前田厚子さん、泉谷富美子さんが、それぞれの活動を通して体験発表。講師の奈倉道隆師（龍谷大学教授）が意見や質問を求め、参加者から年齢の大きく違う入居者や痴呆症の人への対応の仕方についての質問、施設を訪問しての感想や失敗談などが出された。奈倉師は「新時代の伝道とビハーラ活動」と題して、「信心をいただいて生きる真宗念仏者の生き方そのものがビハーラ活動。仏教は新しい時代の思想の根底であり、今、いのちが全世界の課題。実践を通していのちを支える思想を伝えていくことが大切で、死の不安を持ち迷いながらも心の安らぎを得ていくのではないか」とまとめた。参加者は「ビハーラ研修には実践が大切。私たちがどう接していくかがはっきりしてきた」（網干組専念寺・小原唯信さん）、「特別なことと思っていたが念仏者として当り前のこと。婦人会が中心のようですが、いろんな人に接する住職さんももっと参加されたら…」（阪神南組長安寺・渡辺顕代さん）と感想を述べていた◆門徒推進員役員会を別院で◆神戸中組ご消息披露を西方寺で。「お互いの意思統一、認識を深めるために委員会からの話を聞かせていただく」と説明が中心となった◆**28日～30日**＝福岡での全国教誨師大会に教務所長出席◆**29日**＝建設・推進委員会広報部会を別院で。趣意書冊子作成について◆**31日**＝北摂組ご消息披露を正行寺で。納骨所についての質問が多く出された◆**11月1日**＝大谷本廟で永代経開闕法要◆**2日**＝新宮組ご消息披露を潮音寺で。「収入がはっきりしていないのではないか」という不安の声も

二つの中学が別院見学

◆**3日**＝姫路東組正楽寺の住職継職法要に教務所長出席、祝辞伝達◆城崎組仏婦八十五人が別院団参◆**4日**＝神戸国際中学の生徒が別院見学◆**5日**＝職員勤式研修。二十七～二十九日の別院報恩講に向けてお勤めの練習と打ち合わせ◆**6日**＝職員成人病検診◆**7日**＝第一土曜仏教講座を別院で。講師は浄原法蔵師（岡山理科大学教授）テーマは「いのちと生命」。私たちが生きているのはどういう意味があるのか、科学の面と仏教の面から考えてみたい、という浄原師が用意された「キーワード集」を片手に参加者は熱心に聞き入った。浄原師は「今までと違った形で生命観がぐらついている今日、多くの宗教の中でいのちの問題を正面から説いているのは浄土真宗だけ」と力説された◆**9日**＝赤穂南組、北組ご消息披露を赤穂南組妙道寺で。「組内で再建中の寺院が多い中、これだけ多額の懇志依頼が何故なされるのか」という意見も◆**10日～12日**＝教区相談員中央研修会を山科別院で。教区から赤松相談員が出席。僧侶研修会についてアンケート集計を含めた中間報告もされ、参加率は全国平均十二・四％（兵庫教区は十・一％）でした。運動本部では来年度も本年度の基本方針を継承し、僧侶研修も引き続き実施したい考え。三日目には基幹運動本部専門委員の青木敬介師（網干組西念寺）が環境問題について、経済大国日本の環境破壊の実態を見据えながら「汚濁を照らす悟りの智を」と題して特別講義◆**11日**＝東播ブロックご消息披露を兵庫女子短大で。「個々の意見を一つ一つ取り上げていては大きな事業はできない」という意見も◆**13日**＝ビハーラ実践活動研究会員ら六人が神戸市北区にある特別養護老人ホーム「ふじの里」を訪問。今月から毎月第二金曜日に訪問することとなり、第一回目の今回は車椅子の掃除を行う◆**14日**＝淡路組ご消息披露を萬行寺で。「津村別院と比べると神戸別院は貧弱である。力を合わせて立派な別院を」という意見も◆**14日～16日**＝別院常例法座。講師は増井浄見師（赤穂北組浄蓮寺）◆**15日**＝仏壮岡山大会を岡山南組西念寺で。本堂いっぱいの約二百八十人が参加（別記）◆江並教堂報恩講に岡山南組の法中がたと教務所長出勤◆和歌山教区加茂組から坊守会約十人が別院参拝◆**17日**＝加古川組住職寺族同朋講座を養福寺で。講師は山崎一朗師（出石組正福寺）◆**18日**＝姫路ブロックご消息披露を花の北市民広場で。別院資金についての質問や別院会計の公開を希望する意見も出された◆仏青連盟役員会を別院で。十二月二十三日のヤング広場の打ち合わせ、教区仏青研修会、スキーツアーなどについて◆**19日**＝宍粟組ご消息披露を円徳寺で。新聞に別院改築の記事が掲載されたことで今後の対処についての要望も◆大久保北中学の生徒が別院見学◆**20日**＝土基輪番の司婚で中野宗演氏と軌保真澄さんが別院で仏前結婚式◆揖龍東組ご消息披露を圓福寺で。別院に対する門信徒の認識が薄い地域の事情を述べる意見があった◆**21日**＝岡山北組ご消息披露を妙願寺で。納骨所の大きさを三種類に分けることに対する疑問も◆佐用組ご消息披露を常徳寺で。「貴重な建物なので大切な部分は保存するのか」という質問も◆**25日**＝長島愛生園、邑久光明園で報恩講。岡山南組の法中がたが出勤、教務所長も出席し挨拶。講師は松島法城師（多紀組専福寺）と光森宣明師（北摂組正覚寺）でした◆**26日**＝建設・推進委員会広報部会を別院で。趣意書冊子作成について。